

「もっと響く指導」に
するために!

生きたデータの徹底研究

「データ」を活用して客観的に生徒の状況を捉え、指導の方針を整理する方策を伝えてきた「生きたデータの徹底活用」。さらに響く指導を実現するために、現場の先生方と改めて指導のポイントを確認し、「データ」の改良を検討します。

テーマ 2年生0学期の意識付け

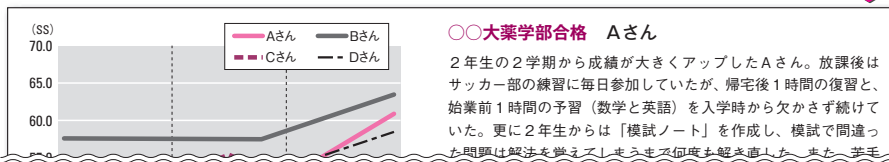


「生きたデータ」2011年12月号を参考に、
2年生0学期の指導に取り組んだところ……

図1 保護者向け「2年生の意義」確認シート

	1年生との違いと2年生の意義	保護者へのお願い
部活動	後輩たちを引っ張りながら、自分たちの力で集団を高めていく。	大会や発表会前に部活動中心の生活になってしまうのは、集団に対する責任を全うしようとしている表れでもあります。人間的成長と捉えて応援してあげてください。ただ、食事を一緒に取る、決められた家事手伝いをするなど、それぞれの家庭のルールはきちんと守らせて、家族との生活も集団生活の一つであることを教えてください。
	目標に向けてやり抜くエネルギーを、	部活動を大切にしながら、最低限の家庭学習は続けるように指導しま

図2 2年生の大切さを伝える卒業生の体験談



私の狙い

目指すべき「2年生像」を保護者に伝え、「チーム」として指導が出来る体制をつくりたかった

取り組み内容

2年生という時期の特性、1年生との違いを先輩の声などを通じて伝え、家庭でのサポートをお願いした

感じた課題

取り組み自体の意味はあった。だが、生徒に2年生への見通しを持たせる工夫が必要だった

「もっと響く指導」
のポイント

1

高1の達成度を客観視し、
自らすべきことに気付かせる



2年生で生徒の学習意欲が停滞したり、成績の二極化が進んだりするのは多くの高校に共通する課題です。高校生活に慣れるのは良いことですが、その「慣れ」を「ダレ」にさせず、主体的な学習態度につなげ、2年生進級を迎えさせたいと思いました。そこで保護者に、2年生の意義と春休みの望ましい過ごし方を伝え、教師と一体になって子どもを支えることを求めました。実際、2年生になってからの保護者とのコミュニケーションは円滑に進みましたが、肝心の生徒の意識はさほど高まらなかったのです。



この時期、1年生は他の時期よりもテストや模試を受ける機会が少なく、その一方で休日が増えていきます。自分で自由に過ごす時間が多くなる分、ダレてしまうか、あるいは自律できるか、その違いは2年生になった時に大きな成績差となって表れます。「2年後の入試に向けて今から準備を」と訴えるだけでなく、生徒に「この時期の重さ」を伝えたいところです。



教師も高校入試の準備などでますます多忙になる中、高校生らしい主体性を2年生0学期に発揮させていくにはどうすればよいのでしょうか。



ややもすると「これから先のこと」ばかりに生徒の目を向けがちですが、まず1年生での成長を振り返る機会をつくってみてはどうでしょうか。

若手先生代表

四国地方の公立高校
に勤務。13年度、2
年度目の1学年担任。



A先生(30代)

中堅先生代表

中国地方の公立高校
に勤務。13年度、4
年度目の1学年担任。



B先生(40代)

※このコーナーは、高校の先生方(今回は中国・四国地方)との検討会の内容を基に構成しています。



「2年生になると成績の差が開いてしまう」「1年生の基礎が固まっていないと受験勉強がスムーズに始められない」などと生徒に力説しても、なかなか実感を持って受け止めてもらえないのが現実です。危機感をあおる以外に方法はないのでしょうか？



「もっと響く指導」のポイントと「生きたデータ」改訂案

自己の成長と課題を振り返るシート

ダウンロード

◎12月までを振り返って自己評価しよう

- ①家庭学習は毎日決まった時間に開始している 4点 3点 2点 1点
1段階アップするためにはどうすればよいと思う？
- ②1日3時間の家庭学習時間が確保できている 4点 3点 2点 1点
1段階アップするためにはどうすればよいと思う？
- ③担任との面談で立てた計画に従って勉強している 4点 3点 2点 1点
1段階アップするためにはどうすればよいと思う？
- ④苦手科目・分野の克服に継続的に取り組んでいる 4点 3点 2点 1点
1段階アップするためにはどうすればよいと思う？
- ⑤定期テストや模試の見直しを行っている 4点 3点 2点 1点

自己評価の内容は、各校の生徒の状況や12月までの指導に応じて変わる。これは学習習慣に重点を置いた内容だが、学校によっては「遅刻をしなかった」「提出物を期限までに出した」「携帯電話の使用に関する約束を守れた」などの生活習慣を中心に振り返ることも出来る

◎高校生になって成長したと思うこと、課題だと思うことを書こう

成長したと思うこと

課題だと思うこと

データを生かす指導の流れ

まずは学年団で「自校の生徒にこの時期までに出来てほしいと望むこと」を言語化し、振り返りシートの評価項目を設定することから始まる。

- 1 「2年生0学期までに出来ていること・出来ていないこと」を生徒にチェックさせる。
- 2 生徒が書いた内容を面談などで確認する。出来ている部分を認めながら、さらにレベルアップするための行動を共有する。
- 3 整理した内容を基に「どんな2年生になりたいか」を考えさせる(35ページ参照)。

「もっと響く指導」のために改訂すると...

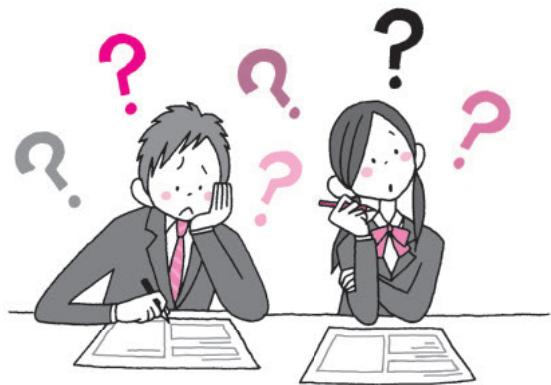


今、高校生として「出来ている」ことを確認し、その上で、2年生になるまでに更に何が出来るようになる**ればよいかを可視化**することで、生徒の2年生0学期の課題意識が具体的になるように思います。出来ることが確認できるからこそ、出来ていないことを受け止められ、生徒はこれから考えられるのだと思います。いわば「**振り返りがもたらす推進力**」です。まず、学習面と生活面それぞれで4月から学校が求めてきたことについてどれくらい出来るようになってきているか、生徒自身がチェックします。そして、もう1つ上の段階に行くには何を变えればよいかをイメージするところまでを第1段階と考えます。



確かに、中学生から高校生になったことでの成長は、それぞれの生徒に確実にあるわけですよね。不足している面に目を向ける前に、自分の成長に向き合う機会をつくるという発想は私にはありませんでした。1年生の達成度を振り返ることで、2年生への準備につなげていくのですね。

以前、生徒に書かせた学習計画には、1年生の学習を総括させる意味もありました。しかし、生徒には「この時期に計画する」ことの意味が伝わらなかったようで、生徒の目標や計画も漠然としたもので終わってしまいました。



「生きたデータ」2011年12月号を参考に、
学習計画を立案させたところ……

図3 「文理の内定期間」の家庭学習計画

1年 組 氏名 _____

●選択した方に○を [文系] · 理系]

●志望大 第1志望 A大学経済学部 第2志望 B大学経済学部

●入試科目 (センター: 国、教、英、地歴公民、理) (センター: 国、教、英、地歴公民、理)
個別: 国、教、英 (個別: 英)

●模試成績から明らかになった「頑張るべき教科・科目」

●頑張っても克服する教科・科目 数学 ●頑張ってもっと伸ばす教科・科目 英語

●その学習法 _____ ●その学習法 _____

私の狙い

文理が「内定」したことでの意識の高まりを基に、受験を見据えた今後の学習計画を立案、実践させたかった

取り組み内容

志望大と自分の学習状況からこの時期に必要な学習を考えて、計画を立てさせた

感じた課題

全体的に抽象的な記述になってしまい、具体的な行動に結び付かなかった

「もっと響く指導」
のポイント

2

なりたい2年生像から逆算し、
日々の行動をマネジメントする力を付ける

以前は生徒に「2年生0学期は文理の内定期間」「文理選択で高まった意識を学習へつなげよう」と訴えましたが、生徒には伝わりにくかったようです。

2年生0学期の課題を考える時も「2年生になるのだから」と焦らせるのではなく、「1年生でこれだけ出来るようになったと、自信を持って2年生進級を迎えよう」と伝えると、生徒も前向きに取り組めるのではないのでしょうか。

確かに「志望大を書き、学習計画を立てる」という活動には既に取り組んでいますから、生徒は「またか……」という感覚なのかもしれません。

この時期、生徒に身に付けさせたいのは、状況を見極めて具体的に中期の計画を立てられる、マネジメント力だと思います。進路研究などもあって気ぜわしくなる2年生では、計画力とやりきる力が重要です。学習時間の教科バランスを確認しながら、2年生4月から逆算して3か月を過ごす経験は、そうした力の養成の場になります。

ただ、「どんな2年生になりたいか」を生徒が考える時に、内容が部活動や学校行事のことばかりになってしまうのではないかという気もします。

以前、先生が保護者へ配布したような「先輩の体験談」や、学校が蓄積している合格体験記を活用するとよいでしょう。自分をマネジメントしたから成功した先輩の体験談により、学習面や生活面にも目を向けさせたいですね。



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、ダウンロードできます！

生徒指導・進路指導ツール集

ベネッセ教育総合研究所

<http://berd.benesse.jp>

生きたデータ

検索

今回のテーマと関連する過去のバックナンバーも同じウェブサイトでご覧いただけます。併せてご利用ください！

HOME→教育情報→高校向け→

生徒指導・進路指導ツール集をご覧ください

2010年度12月号「目標とのギャップを埋める2年生0学期への意識付け」
2009年度12月号「『2年生0学期』を見通した1年生2月までの学習習慣の定着」
2007年度2月号「2年生0学期の意識付け」



「もっと響く指導」のポイントと
「生きたデータ」改訂案

目標とする2年生像から今すべきことを逆算するシート



◎先輩の「2年生で取り組んだこと」を読もう

A先輩 (S大学経済学部合格)

2年生になって一番力を入れたことは、バスケットボール部の練習です。次に力を入れたのは学校祭の模擬店の準備です。高校3年間を振り返っても、2年生が一番充実していました。でも、部活の練習が毎日あったので、勉強の時間は平日は1、2時間しか確保できませんでした。だから、僕が重視したのは、苦手科目をそのままにしないことです。特に成績があまり良くなかった数学は、たとえ短時間でも、その日の授業ノートの見直しだけは欠かさないようにしました。このノートの見直しの時間を毎日確実に確保するために、夕食前30分間を数学の学習に充てることにしたのです。正直「数学の勉強は嫌だな」と思うこともありましたが、「これを頑張れば晩ご飯だ」と自分を励ました。母にも「数学の勉強を怠けないためにも、夕食の時間を出来るだけ同じ時刻にしてほしい」と頼み

◎先輩の体験談を読んで、君はどんな2年生になりたいと思った？

◎では、2年生になるまでの3か月の目標は何だろう？

◎上の目標を達成するために毎日を過ごし、記録してみよう。()内には教科ごとの学習時間を記入しよう。

18	19	20	21	22	23	24時	国	数	英	理	地
月							()	()	()	()	()
火							()	()	()	()	()

データを
生かす
指導の流れ

生徒が「これまで」を振り返り、「これから」を考えられるようにする。目標に向かって自律を試みる中で、保護者にも家庭生活でのサポートを求めていく。

1 これまでの振り返り(33ページ参照)と先輩の2年生時の体験談を踏まえて、なりたい2年生像と2年生0学期のテーマを考えさせる。

2 生徒が目標達成を意識した上で、家庭学習時間や生活習慣を記録することで、マネジメント力を育む。

3 保護者向け配布物の中で、食事時間や就寝時刻を固定し、生活リズムをつくることの大切さを伝える。

「もっと響く指導」のために
改訂すると...



学習計画ではなく、**学習の記録を付けるのは、「今日1日の過ごし方が、3か月後の自分のためになっているか」を日々問い直せると思うから**です。また、「これだけはやった」という実感も得られると思います。



学習時間だけでなく、**食事の時間や就寝時刻も記録して、自分の生活パターンをどれくらい確立できているかを確認させてもよい**ですね。



前は保護者への発信はうまくいったということですが、今回の生活記録に食事の時間や就寝時刻を盛り込むことで、保護者にも関心を持っていただければ、家庭での更なるサポートも期待できると思います。

そして、**学習面での頑張り**が今ひとつの生徒でも、**生活面での成長を実感して進級できればよい**ですね。勉強時間がたとえ30分でも、学習開始の時間が固定できればそれも小さな成長ですから。2年生0学期までの振り返り、そして2年生0学期以降の記録の両方とも、**自校の生徒の特性に応じて、重点を置く内容は変えるべき**でしょう。